建学の精神

平和学園は、賀川豊彦を初代理事長とし、村島帰之によって創立されたキリスト教主義の学園である。

学園の建学の精神は、キリスト教信仰にもとづき、自由で平和であたたかい愛の学園をきずき、神を信じ隣人を愛する人、真の平和をつくるまことの人を世に送り出すことである。

平和学園　校章・マーク
左:「平和」に因んだ鳩の形。中心に十字架と、松林に囲まれていた学園を象徴する青松葉。
右：全体のヨットの帆の形はアレセイアの頭文字 A を表現。中高の校名変更時に採用。

学校法人 平和学園

〒253-0031　神奈川県茅ケ崎市富士見町5-2

TEL：0467-87-0131　FAX：0467-87-0183

創立

1911 年（明治 44）貧しい者が安心して医療を受けられるという〈済生に関する勅語〉が発布され、これに感激したキリスト教信徒の医師 10 数名による〈医師伝道会〉は、当日直ちに結核予防会〈白十字会〉を結成。「1 ポンドの治療より 1 オンスの予防」といわれていた結核対策に対し、白十字会では虚弱児童を都会の煤塵から守り、自然の中で生活することで体力の増進を図ろうと、1917 年（大正 6）7 月 10 日、虚弱児童養護施設〈白十字会林間学校〉を神奈川県高座郡茅ヶ崎町小和田浜（現・富士見町）に設立しました。フランスのウェルネーの戸外学校にならってつくられた林間学校は〈太陽学校：School in the sun〉と呼ばれ、初代校長にはクリスチャン政治家として知られた江原素六が就任し、校医は林止が務めました。

1923 年（大正 12）の関東大震災で、12 棟の校舎のうち 11 棟が倒壊。2 代目校長の宮腰信次郎が復興に奔走しましたが交通事故で不慮の死を遂げ、林が治療事業兼務のまま 3 代校長となりました。1926 年（大正 15）牧師で社会運動家であった賀川豊彦が理事に、1937 年（昭和 12）には村島帰之が白十字会の総主事に就任。のちに白十字会林間学校から学校教育部門を分けて〈平和学園〉を出発させました。

1941 年（昭和 16）国民学校令が公布されて、小学校が国民学校と改められたのを機に、村島が 4 代校長になりました。戦時中は海軍砲術学校に校舎と敷地が徴用され、残された生徒 60 名は新潟に疎開しています。

終戦の年の 10 月から林間学校は再開しますが、残った児童はわずかに 7 名。破損箇所の修理にお金がかかる上、終戦と同時に多方面から寄せられていた援助が打ち切られ、食料難も重なり、八方塞がりの状況に陥りました。村島は、当初のキリスト教教育に立ち返り、多くの反対を退けて女学校を併設することにしました。

1947 年（昭和 22）新教育制度 6・3・3 制が発足したことに伴い、男女共学の新制〈平和中学校〉として新スタート。社団法人の私立学校経営が認められなくなったため、林間学校の小学校部門は白十字会から独立して、平和中学校とともに財団法人白十字会〈平和学園〉となっています。

左　創立者　村島帰之（1891～1965年）
賀川の「世の中の雑巾になれ」
村島の「他人の不幸を笑わない」の
言葉は今も語り継がれています。
右　初代理事長　賀川豊彦（1888～1960年）

創立の背景と歴史

平和学園の事実上の創立者は、村島帰之です。村島は 1891 年（明治 24）現在の奈良県桜井市に生まれました。父は九州・杵築の武芸指南役を務める家系でしたが、明治維新で官職に転じ、父の転勤に伴って転居を繰り返しました。早稲田大学卒業後、大阪毎日新聞社に入社。1917 年（大正 6）新聞紙上に 24 回連載で『ドン底生活』を発表したのを皮切りに、「人生の報告」とも呼ぶべきルポルタージュを生涯にわたって続けました。25 歳のときに賀川豊彦と出会い、川崎製鉄所の労働争議でサボタージュを指揮するなど、新聞記者を続けながら賀川の活動をサポートしました。まだ労働運動という概念さえなかった日本において、大正デモクラシーの気運が高まる中、社会問題を取り上げた村島の記事は社会からも読者からも歓迎されたのです。

早稲田在学中に結核にかかった村島は、1922 年（大正 11）湿性肋膜炎で入院。それまでの生活を悔い改め、翌年、御殿場で賀川から受洗します。直後に関東大震災が起こり、神戸から救援のために駆けつけた賀川たちと被災地救援と復興に尽力しました。大阪毎日新聞社会事業団主事になっていた村島は、1934 年（昭和 9）室戸台風報道による過労が原因で喀血。1937 年（昭和 12）病気のために退社後は、当時「死の病」と恐れられた結核予防のために、残りの人生を捧げる決心をしました。白十字会の総主事を経て、1941 年（昭和 16）同・経営の林間学校の 4 代校長に就任しました。

経営困難に陥っていた林間学校に、1946 年（昭和 21）3 月 13 日、村島の強い要望で平和女学校が併設されます。林間学校と兼務して、初代理事長には賀川豊彦が、校長には村島が就任しました。平和女学校の開校により、白十字会林間学校は二本立てとなりました。また全寮制だった林間学校は、時代の要請に応え、通学制度を取り入れます。このことで虚弱児教育を主眼とした使命を終え、平和女学校とともに白十字会本部から離れていくことになりました。

厳しい経営のさなか、公立学校の不足から、準公立校になれば補助金が受けられるという制度ができますが、村島はキリスト教教育を堅持するためにこの誘いを断り、職員たちも村島の決断を支持しました。開校間もない平和女学校には PTA が発足し、これは神奈川県内で最初につくられた PTA となり、学校を支える大きな力となりました。

1949 年（昭和 24）平和学園として財団法人格を得、隣地の県有地の払い下げを神奈川県に申請し、高校用敷地として取得することがかない、父母の寄附と賀川の私財によってまかなわれました。何百本もの松が生い茂る土地の整地は、教職員、生徒、父母が、伐採やローラーでの地ならしという実際の勤労奉仕を行なうことでつくられたものです。

1950 年（昭和 25）私立学校法の施行に伴ない、翌年、財団法人から学校法人に組織変更。創立時には男女共学でしたが、1961 年（昭和 36）中・高は女子校になります。1981 年（昭和 56）中学校が募集停止となり、10 年後の 1994 年（平成 6）女子校として再開。1999 年（平成 11）教育改革の潮流の中で、建学の精神の深化を目標に、アレセイア湘南中学校と改称し、創立 50 周年を経過したところで男女共学に戻します。翌年には高校も同様の変更を行ないました。